



ひかりのこつうしん No.7

2024/11/29

ひかりの子幼稚園

「就学前教育～心が動く経験が与えるもの～」

先日、「幼稚園・保育園・小学校連携架け橋プログラム」というテーマで交野市幼児教育推進協議会主催の研修に参加してきました。交野市にある幼稚園・保育園の園長と小学校校長が一堂に会し、東大阪大学 吉岡眞智子学長のお話しをお聞きました。研修内容にとっても感銘を受けましたので保護者の皆様にも共有させていただきます。

吉岡氏は小学校教師から教育委員会を経て、東大阪大学こども学科にて教鞭を執られ、現在は学長でいらっしゃいます。吉岡氏が小学校1年生の担任に初めてなった頃、『なぜこんなに小学1年生の子どものスタートの姿がバラバラなのだろう?』と感じたそうです。

例えば、ある子どもは1年生で習う文字や数字を幼稚園で教えてもらい全部知っているが、授業がつまらなそう。字は知っているけど宿題の「あのね帳」には非常に苦勞する。『どこどこに行きました。なになにをしました。』とは書けるが、あった事柄のみの記述で、自分がどう思ったのかを言葉にする感性が育ってない事を感じた。

一方、ある子どもは文字を知らなくて入学してくる。毎日のひらがなの宿題はとても苦勞するが、字の読み書きをマスターすると次第に自分の思いや感動を文字化し表現することができ、その感性に驚かされた。例文として

『今日お母さんと買い物にいきました。帰り夕焼けが真っ赤できれいでした。明日は晴れかな? 晴れるといいな。』

吉岡氏は『就学前教育でみんな同じような経験をして小学校に入学してきていると思っていたが、1年生のスタートが違うことは就学前の教育の違いによるものではないか?』そのような考えから幼稚園・保育園のことを詳しく知りたいと思い、近隣の園見学を始めたそうです。そして、園によって活動や経験している内容、またそれらの活動が子ども主体なのか先生主体なのか全然違う事を知って驚いたそうです。

『字が書けるようになってきたら、たくさん遊んだり、たくさん考えたりした幼稚園、保育園での経験や体験が生きてくる。空を見あげ夕焼けが真っ赤で感動した体験、夕焼けが赤いと明日は晴れると教えてもらった経験、その経験を誰かに伝えたいと思うのが「あのね帳」に出てくることを実感した。』

『就学前教育では画一的に何かを教え込む事よりもっと大事なことがある。夢中になって遊び込む経験(その中で、困ったり、ケンカしたり、泣いたり、話し合ったり、自分の気持ちを話したり、感動したり、心を動かす経験)をして、感性をいっぱい園で育てほしい。そういう経験がきっと心の土台となり、将来の豊かな成長に繋がる』
と話を結ばれていました。

吉岡氏がお話の中で語られた事は「遊びの中から非認知能力を育む」ことであり、その事はまさにひかりの子幼稚園の保育理念で、私たちが願っている子ども像です。ひかりの子幼稚園では入園した時から卒園するまで、その年齢・発達に合わせて、自分で選ぶ、自分で決める、思いを言葉にする事を大切にしています。

今、園ではアドベント 2 週目を迎えクリスマス会に向けて

- ✚ 年長組は、クリスマスページエントの役決め
- ✚ 年中組は、劇遊びに向けての役決めや動物の動き
- ✚ 年少組は、楽器遊びの楽器選び

これらを担任が一方的に決めるのではなく自分達の話し合いの中で、試しながら、折り合いをつけながら決めるということをしています。すぐには決まらずとても時間がかかりますが、心が動く、感性が育つ瞬間が生まれ、園で大切にしている時間です。これらの経験は確実に子どもたちの中に根付いています。お子さまの成長を信じ、あせらずじっくりと向き合い、お話を聞いてあげる時間を大切にしながら過ごして下さること願っています。

クリスマス会当日には保護者の皆様と共にお子さまの成長を喜び合い、イエス様のお誕生をお祝いできることを楽しみにしています。

あと今年も残すところ 1 ヶ月となりました。
何かと気忙しい季節ですが、皆様の健康を心よりお祈りしています。

ひかりの子幼稚園
園長 松本直子